

○ 1 番（上田雄一君）〔登壇〕

皆様改めまして、こんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、上田雄一の一般質問をさせていただきます。

昨日の一般質問の中にもありましたけども、まずはがばいばあちゃん19.2%という高視聴率、本当に喜ばしい限りです。先日も共同テレビに私もお伺いしたとき社内にでかでかと張ってありました。「がばいばあちゃん祝高視聴率」という感じですね。これもひとえに市民の皆様の御協力あってのものだと思っております。

私ごとで恐縮ですが、先月28日で35歳になりました。35年前の2月28日というと浅間山荘事件の警官隊が突入した日であり、調査開始以来、最高の視聴率を記録したと。人質救出の瞬間は民放、NHK合わせて90%程度を記録したそうで、私の誕生そっちのけで父はテレビにかじりつきだったそうです。90%と言えばもうほとんどの人が見ているということで、今後、また武雄でロケ等あるのであれば、そのときは19.2%と言わず、さらなる高視聴率を目指して武雄のPRを期待したいところであります。

さて今回、私は、競輪事業について、中心市街地について、スポーツ振興について、以上3項目を通告させていただいておりますので、通告に従い質問させていただきます。

それでは、まず競輪事業についてですが、つい先日、内閣官房副長官とお会いしたときの話です。我々が佐賀県の武雄市から来たという話で武雄温泉の話も出しましたし、もちろん、がばいばあちゃんの話も出しました。そいばってん、なかなかぴんと来られず、話をしておって、こん人はがばいばあちゃんを見とんざらんとやるにやと思うておりましたけど、会話の中で武雄競輪の話が出てきたとき、「ああ武雄競輪の武雄ね、知っとう知っとう」と。標準語やったけんが知っている、知っているということやったですけど、いう話になり話も弾んだわけでございます。それほど武雄競輪というのも、がばいと並んで武雄の看板素材であることを改めて認識させていただいたわけです。

しかし、その競輪事業もやっぱり全国的に厳しいようで、平成3年度の1兆9,553億円をピークに年々減少をたどり、平成16年度には絶頂期の半分にも満たない9,150億円、さらには平成17年8,774億円と。16年、17年を比較しても4%、金額で376億円のダウンであります。そういう中で武雄競輪も例外ではなく、基金の取り崩しを送る日々と伺っております。

先日、ようやく鹿児島県の天文館のサテライトがオープンしたように、サテライトは好調のようですが、本場の活気がいま一つ足りんとやなかかなと。サテライトばかり話が出ておりますけど、本場というのはやっぱり大事と思ひまして、そこでお伺いします。

本場の今の集客状況といいますか、入場者数の状況をお聞かせいただければと思います。

○ 議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○ 松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

本場のファンの入場者数の件ですけれども、これはビッグレース、それから普通のレースでもいろいろ違いますけれども、平均いたしまして1日600人から多いときで800人ぐらいということで、現在普通開催でそのくらいの状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私も調べたところ、普通開催に限らず場外も含めて平成15年には1,000人超えとったところが、18年には1,000人を割り込んでというふうに、やっぱり年々入場者数も減少しよるような状況にあるごたっですもんね。17年の全体の売り上げの比率からも本場の売り上げというのは10%ぐらいで、売り上げアップを考えるならやっぱりもっと本場を盛り上げていかんざいかんとやなかかなという気がしております。そのために必要不可欠なのが新規ファンの獲得でありまして、今、武雄競輪で、もちろん、最も重要な新規ファン獲得のためにいろんな施策を行っておられると思いますけども、具体的にどのような施策を行っておられるか、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えをいたします。

議員御指摘のように、競輪の本場の方においでいただくお客さんもずうっと現在減っております。そういうことから場内におきまして、いろんなイベントをして新しいファンの獲得を図りたいということで、今検討をしているところでございますけれども、平成19年度におきましては、アマチュアバンドのライブを実施するということで計画をしてファンの獲得に努めたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

アマチュアバンドのライブを19年度に計画されているというのを私もちょっと初めて聞きまして、実はそいば私もきょう提案しゅうで思いよったところやったですよ。そいけん、ちょっと流れのまたおかしゅうなってしまうよとですけど、いや、今まで競輪に限らず競馬とか競艇、オートもそがんとするんですけどね、やっぱり公営ギャンブルというような形でどうしても今までイメージとしてばくちのような感じのイメージをやっぱり今まで持たれたったと思うとですよ。

そいぎ、ことし年頭のパブリックビューイング、あんときに私もスタッフとしておった

けんがようわかったとですけど、わっかもんの初めて来たという人が非常に多かわけですよね。それで、なおかつ「武雄競輪がこの辺にあるというのは、わかつとったばってん、どこから入ってどがんふうに行くぎ競輪場に着くとかということを初めてきょう知ったばい」というもんも、結構、意外とやっぱりあるわけですよ。そがんふうにして競輪場とやっぱり市民の人たちも含めて競輪場の距離を近うせんばいかんと。もっと競輪場というのが身近なもんになるというごたっふうな施策をせんばいかんということで、私もアマチュアバンドのことを提案しゅうで思いよったばってん、ちょっと拍子抜けして、ぜひよろしく願いしますと言いたかところばってん、その日、開催日じゃなかつたところ、例えば、一流バンドが今ライブとかあいよつともですよ、今までは屋内ライブというのが主流やったところが、もちろん、武雄に今、武雄の文化会館というののあつけんですね、きのうも「地震カミナリ火事オヤジ」やったですかね、消防団主催のミュージカルがあつて、私も行って、がばいよんにゅう入つとつわけですよ。そがんして屋内ではびしゃって対応できる施設の文化会館というののあつとばってん。屋外というぎなかなか難しかところのあつと思うとですけど、そういうとのライブ場としてもまず競輪場を全国でPRしていくというごたっ形にもとれんかなと。アマチュアバンドない、私は個人的な感じとしては開催中もでくつとやなかつたかねと。来とんさつお客さんの、何というか、通常車券を買いに来る人とは別にライブを見に来て、ついにお金を落していくという取り組みを考えんばいかんというような感じで思うとつたわけですよ。

そいぎ、一流ミュージシャンを呼んでライブ場としての使い方というのは競輪場として考えられるか、御答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

がばいばあちゃんを誘致してつくづくよかったなと思うのはですね、単に泉ピン子さんと石田ゆり子さんとか、大物女優さんたちだけでなく、実は音楽担当の方ともお友達になれたとですね。この音楽担当のお友達、例えて言えばですね、安部潤さんという人のおんさつですよ。この人はTBSのプロードキャスターの音楽をしたりとか、あるいは広瀬香美さんのキーボードのライブについていたりとか、その業界では恐ろしゅう有名か人ですね。この方と非常にお友達に実はなることができて、前、広瀬香美さんのコンサートに僕呼ばれて行ったとですね。よかったですね。生でやっぱり3,000人、ああ、あんどとき2,000人が、福岡のマリンメッセでしたっけね、あそこで見たときに、ああこれは武雄に呼ばんばいかんと思うて、広瀬香美さんにアタックをしました。そいぎ気のない返事でやりましょうということ言われて、気のない返事でしたけれども、安部さんに後でお願いしたら、それは、いろんなちょっと呼びかけをしたいということをおっしゃっていただきましたので、やっぱり

そういうネットワークができたということで、私もそのネットワークでしておくんさいということをもた言うていこうというふうに思っております。

その上で、やっぱりそのときに必ず言われるのは、地元の人に来ていただけるんでしょうかというのをやっぱり広瀬香美さんも私に言んさったとですね。だからそのときは、きのうの「地震カミナリ火事オヤジ」でしたっけ、ちょっとごめんなさい。言い間違えたら済みません。私は途中で抜けましたけれども、後で聞いたら物すごうやっぱり評判のよかったとですね。そういうことで、きのうも満席に近い形で埋まっとったです。そういう形で来てもらったときに、特に地元の方々が行くことが本当に確保できれば、それはあながち夢じゃないというふうに思っております。

私もあそこをコンサート会場で使えるように頑張っていきたい。ただ、あそこの場合、音響の問題があります。もう半開きになっとっけんですね、それが漏れていくとか、民家もありますので、その問題をちゃんとクリアはきちんとしなければいけないというふうには思っております。頑張ってまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

前向きな答弁でもう安心しました。「ゆず」とか知っとんさっですか。あんまいこの辺は知っとんさらんと思いますけど、有名なミュージシャンで「ゆず」というのがインディーズ時代に神奈川県にある伊勢佐木町商店街の松坂屋前で毎週日曜日の朝10時から歌いよったそうですね。そいぎ、もうまちでは伊勢佐木町商店街が生んだ「ゆず」ということなっとっわけですよ。そいで観光名所にまでなっとると。そいぎ、武雄競輪からも一流ミュージシャンのそがんと、ぽっと出ていきんさっぎんた武雄競輪場が生んだミュージシャンやものと言うごととしてですよ、また、武雄ばアピールでくっことにつながっけんが、ぜひよろしくをお願いします。

そんときにも、競輪選手というぎ、やっぱり日本のプロスポーツ選手で一番人数の多か競技やなかですか。そいぎ、いろいろテレビとかにも出よっばってん格好のよか選手もいっぱいおっわけですよ。そいが、なかなか成績を伴っとるかというぎ、まだそこもいろいろあっかもわからんばってんが、そがんして地元の女の子の追っかけとか、そがんふうになっぐらい選手の顔をもっと前面にぼんぼん出していって、競輪というのをとにかく距離を近づけて、だれでもわっかもんもどんどんどんどんというごたっふうにしてもらうぎにゃと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

それでは、続いて中心市街地について質問させていただきます。

まず、北部商店街の区画整理事業についてですけれども、松原通りを含んで20メートル道路になる予定であるわけですがけれども、現在の進捗状況というか、これからのスケジュールに

ついて中身を明確に御答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

現在の進捗状況でございますが、本年度末で54%の進捗率ということになっております。

それから、今後のスケジュールということですが、平成19年度は仮換地案がまとまり次第、仮換地指定と、それから一部の家屋調査、それから移転の予定をしております。平成20年春に高架への切りかえが行われますので、その後、線路北側の家屋移転や道路工事、宅地造成などを本格的に進めたいと。そして、平成25年度で完了ということで現在まで出しております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

平成25年を目標にということですけど、今の流れから行くと沿線住民の方たちは郊外再築なり引き家なりでいろんな方法ですよ、移転を御協力いただくことになると思うんですけど、その条件――条件と言うと聞きかたかも知れん、何ば基準で郊外再築になったり、引き家になったりというような形になるのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

区画整理事業の場合の移転は基本的に引き家工法ということになっておりますけれども、従前の家屋が整理後の土地に入らない、それから障害物がある、それから経済比較で再築の方が安い、こういった場合には再築工法というふうなことで認められているというふうに聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私もその辺の確認はしておりますけど、区画整理事業にはですよ、商店街の活性化というのが目的の一つであると思っております、松原通りというのはやっぱり武雄の中心商店街の一部で、私の個人的な感想といっても、その通りにはやっぱり商売をしていただく方とか、店舗を構えていただく方というのがびやあっと並んでももらいたいなという気持ちがあるわけですよ。極端な話、84億円の投資を行ってせつかく20メートル道路になってですよ、駅と温泉を結ぶ道がぴしゃっとできたとなったときに、もちろん、駐車場もそこには必要になってくると思うんですけどね、余りにもぽつんぽつんというごたっふうな感じで店舗がなったり

とか、せいとか、例えば、並んだとしても商売しんさらんで住居ばっかいべらって並んだりとかすっぎ、なかなかあんまい意味んなかにゃと私は思うとですよ。

せいけん、実際ですよ、商店街の中の高齢化もやっぱり進んどのもんで、現実的にやっぱり商売継続を悩んでおられる方もおんさっわけですよ。そういう方々の土地を、例えば、ある一定集約して売ったり貸したりとできるような手助けを行政が音頭として推進するようなことが必要であるというふうに考えておりますけど、現在のそういう取り組みについて、御答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

地権者の意向とか、それから従前の土地の条件、こういったものを総合的に判断をさせていただいて、できるだけ集約できるような努力をしたいというふうにしております。

土地をまとめることで商店などが進出しやすくなったり、店舗を連続するというふうなことで活性化ができればということで、そういった面も話をしながら期待していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後、恐らく参考になるのはですね、例えば、シンガポール。シンガポールは道があって1階がテナントになっとっわけですね。それで住居は上のテラスがあって、そこに住んどっさっわけですね。そいぎ、裏はシンガポールも高齢化のやっぱり進んどって、どういうふうにして上いよんさっかなと見たら、結構、後ろからエスカレーターのひゅうとついつわけですね。そこで各テラスを結んだりとか、専用のエスカレーターがあったりとか、それがすごくやっぱり参考になるわけですね。そういったことで、じゃあ武雄で、あるいは日本でどういったことができるかといったら、先ほど部長が答弁したように、ハードの部分というのは換地処分と土地区画整理事業というのはあります。ソフトでナイスチャンスです。町並み交付金というの国土交通省でできたわけですね。町並み交付金。これは、一定の町並みを統一すれば一定額で補助ができるということと、もう一つがまちづくり交付金です。そういうことで、ソフトの補助金をうまく使ってなるべく移動者、移設者の皆さんの負担をちょっと減らすように、これは私自身もそういうふうに積極的に取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

シンガポールはちょっと全然私も知らんもんで、機会があったら行くなりなんなり、インターネットなりなんなりで調べてみたいと思います。

その商店街の方々もですよ、現状でもかなり敷地も狭い中でやっぱり商売を続けよんさっわけですよ、移転するとなっても引き家ですね、引き家になってもやっぱり区画整理に伴って減歩もあっわけですね。敷地も今よりかさらにやっぱり狭もうなっわけですよ。そいが避けて通られんような現実で、ちょっと難しかかもわからんばってん、東京とかにもあつごたつ、例えば、六本木ヒルズじゃい、何かにゃ、表参道ヒルズとか、そがんふうなどのごたつと温泉通りにいっちょ、ぼとつとあつて、そこに武雄の個人の商店は全部入ってくいるというごと、もう大胆な発想でもよかけんがほんなごて中心商店街の活性化につながるごたつとばですよ、行政としてしかできんごたつこともあると思うけんが、大胆な発想を持って取り組んでいただきたいなというのが私の切実な願いです。

ちょっと時間が中途半端なんですけどね。済みません。下水道事業について。下水道といっても市民の皆さんの声には、今までもいろんな議会で議論がされておって、市民の人たちはもう「下水道の始まっとやろ」と、「工事はしよらすばってんどがんないよっとや」と。「幾らぐらいかかっとや」と。そういう声をよう耳にすっわけですよ。「議会でも議論しよんさっばってん、何じゃいわけのわからん話ばっかい、あんまい難し過ぎておいどまわからん」て言う人が、やっぱり結構おんさっですよ。そがんふう知識が乏しいのも現実で、ある程度やっぱり具体的にはなってきたとやなかかなと私も思うとですけど、そういう中で、今の現在の状況というか、どこの地区がどの時期から開始さるっよというごたつ計画を、例えば、改めてわかりやすう御答弁願えませんかと思って、はい、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

ちょっとくどくなるかもわかりませんが、説明させていただきたいと思います。

まず、事業の経緯からですが、武雄の中心市街地183ヘクタールを平成16年3月に都市計画決定、同年6月に武雄温泉を中心とした区画32ヘクタールを事業費、約34億円、事業期間を平成22年度まででの事業認可を受けて、平成19年12月の一部供用開始をめどに事業に現在着手をいたしております。

現在の進捗状況と今後の工事予定でございますが、処理施設はことし3月には土木建築が完了し、電気機械もことし11月に完了予定でございます。現地に行ってもらつとわかりますとおり、もう建物は既に完了、見えるようになっております。

それから、幹線管渠は川端地区から国土交通省の河川事務所の裏まで既に完了をいたしております。19年度は残り約490メートルございますので、これを施工して11月までには処理場まで完成をするということにしております。それから、区画内の枝線の管渠は川端地区は

完了しております。ことしの4月から温泉通りの工事に着工して、その後、本町、蓬萊町、内町、西浦町、中町、宮野町を順次施工して、平成21年度までに終わりたいということで予定をいたしております。ただ、土地区画整理区域につきましては、区画整理事業の進捗にあわせて施工するというようにしておりますので、そのところで若干前後があるというふうに思っております。

供用開始でございますけれども、平成19年の12月、できましたら川端地区、それから平成20年の1月には駅の近く、平成21年に松原踏切の部分が完了をいたしますと、本町、蓬萊町、内町の一部、それから平成22年度に富岡のガード、これが完了をいたしますと西浦の一部、中町、宮野町、内町の一部ということで現在予定をして工事をしているところでございます。

あと個人負担分やったですかね。

〔1番「そうですね」〕

それでは、続きまして個人負担ですけれども、これは一般家庭の場合でちょっとどれくらいははっきりかかるといえるとは言えませんけれども、宅地内設備費、これは現状が合併浄化槽を現在されている方、この方については約100千円から200千円くらいかかるのではないかと。これは浄化槽の流入部から公共汚水ますの配管、これが長いところもありますでしょうし、短い方もいらっしゃるというふうなことで、ちょっと金額はそれぞれの幅がございます。

それから、現状くみ取り方式の方、この方につきましては、トイレとか台所、ふろ、洗濯、洗面所、こういったものの配管とか便器の交換などがございますので、約800千円から1,000千円程度かかるのではないかとということでございます。

それから、単独浄化槽の設置をされている方については、便器の交換は必要がないというふうに聞いております。

それから、宅地内の接続工事費については、ほかの地区の事例を参考にちょっと今金額を上げたところでございますので、それぞれでまた違ってまいるかというふうに思っております。

それから、負担金、使用料、これにつきましてもまだ決定いたしておりません。

ただ、農業集落排水事業の負担金は公共1件について150千円いただいております。それから、使用料ですけれども、農業集落排水事業の武雄の場合、矢筈地区が現在行っておりますけれども、これは基本料が1千円で1人800円ということですから、4人世帯ですと800円の4人で3,200円ですから、4,200円というのが現在矢筈地区の使用料になっております。大体、そう変わらない形ではなっていくんではないかと思っておりますけれども、ただ、山内、それから北方、こういったものを含めて現在こういった料金体系にするのかということで協議をしております。9月までにはそのところを決定していきたいと思っておりますので、それまでにはこの分の負担金、使用料についてもある程度は明らかにしていくことができるのではないかとというふうに考えている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

9月議会あたりがめどで、今後、費用決定までのスケジュールが大体はつきりしてくるというようなことですね。ちょっと、そういう中で下水道に切りかえるとなるとき、今の計画で月々のランニングコストは下水道が得になっばってんが、初期投資の費用もかかるというわけで、実際、100%加入していただくことが理想やっけんですね、やっぱり納得して加入してもらおうような努力が今後さらに必要になってくると思います。

何でがん質問をしよるかということですね、やっぱり下水道について、冒頭にも言いましたけど、余りにも市民の皆さんに知らされていないというような、住民にとって説明会すらかなというごとしてお怒りの方もいらっしゃるわけですよ。ただ、でも調べた結果、下水道課の方々もやっぱりその説明会はしとんさっわけですね。ただ、その時期的なものが15年に実施されて、3年たつぎやっぱり忘れてもすっし、そんなとき行きえんじい聞いとんさんもんもおんさあろうし、そういうことでやっぱり住民の周知徹底には御尽力いただきたいと思っています。

それで、例えば、漫画とかを利用して、もっとわかりやすかごたっ資料にしてもらうて情報提供をお願いします。

そんなとき、ちょっとどことは申し上げませんが、他市の話ですね、せっかく道路をおしゃれなタイル調の道にしたと。そいばってんがその後に電線の地中化じゃいやったと思うとですけど、せっかくタイル張りできれいにした道をまた掘り起こしんさったと。そいぎ、結局、今度その終わったかと思うたら、そこだけアスファルトになっとったとかというごたっ話を聞いたりしたもんやっけんですね、やっぱり武雄市の中ではそがんことはなかごと綿密に計画は練っていただいて、むだのなかごととしていただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

ここで午後1時まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時54分
再	開	13時

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、再開をいたします。

1 番議員質問を続けてください。1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

こい難しかですね。この休憩後というのは。次に、スポーツ振興についての質問に入ります。

私も毎度、毎度、スポーツ振興と言いようわけですけど、最終的に私の一番の思いという

のは子育て支援の充実ですので。それをするための自主財源策、さっきも市長の言いんさったごと、その自主財源ば確保するために、どがんして武雄ば盛り上げゅうかなて考えようわけであってですね、そのための、私はスポーツ振興というのをうたっているわけでございます。

今月の23日から選抜高校野球が甲子園で始まります。去年は伊万里商業で盛り上がり、ことしは県代表小城高校の活躍にも期待が集まります。これまでと違って、例えば常連と言われる高校ではない学校の出場の背景には、いずれも中学生の硬式野球クラブがあるわけで、これまで中学校の部活では軟式野球のみであり、武雄市でも何とかその硬式野球をというのが待ち望まれておったわけです。ようやくそういう環境を整備しようということで、先日、中学生を対象とした硬式野球チーム、名称が「ザスパ武雄ベースボールクラブ」と。「ザスパ草津」のパクリじゃありません。「武雄温泉」という、「武雄温泉のベースボールクラブよ」ということで、武雄温泉を前面に出した名前で、これは民間のボランティアによるチームですけど、こういったスポーツを通じた青少年育成、まちおこしというのはぜひ応援していくべきだと考えております。

そういうボランティアの社会体育活動の中で、そのチームが先日、練習のために北方サンスポ球場の利用を行うというときに、施設の申請を行われております。例規集にもうたっているように、青少年育成の事業であれば減免措置というのがあるわけですがけれども、それが受けられなかったと。後で確認したら、もう当然それは減免の対象になるよということでしたので、実際そういう市民の人たちの手続のやり方とか、やっぱりその不公平感がないように、改めて手続の方法徹底を強くお願いしたいというところであります。

そういう中で、ちょっとさておき、今各地で新たな取り組みが始まっております——ちょっと本題に入りますけど、フットサルのプロリーグでFリーグ、そしてプロ野球の独立リーグとして、九州独立リーグという今構想がっております。こういう新たな試みに武雄市も着手する必要があると思っております。

前回までの私の一般質問の中で、フットサルに関して、それはおもしろいヒントをいただいたと、フットサルを活用して何かできんかなと、考えていきたいというふうに、市長答弁いただきましたけど、このフットサルの中でのFリーグですね。Fリーグというのに対する今の見解というか、Fリーグについて御存じかどうか、御答弁願えますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

FリーグのFは、フットサルのFリーグだと思いますけれども、9月に初の全国リーグが開幕して、すさまじい人気だということで、今、チームは——済みません。何チームでしたっけ（「8」と呼ぶ者あり）8ですね。8チームあって、また2年後をめどに、またふやす

ということで、今後そのフットサルというのがさらに根づいていって、全国的なサッカーと同じぐらいの人気を博すスポーツにはなるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

フットサルですね、この中にも結構フットサルで何やというような人も結構いらっしゃるんで、ちょっとフットサルのさわりだけでも説明したいなと思っておりますけれども、ちょうどここにボールのあとですよ。（フットサルのボールを示す）だれが持ってきたかわからんとですけど。もう見てもらうぎ、わかるとですけども、サッカーボールとするぎ、もうころっと一回り、二回りぐらいこまかわけですね。それで、ローバウンド性といって全くはねんごたっ構造になっとつとですよ。普通ならーサッカーボールなら、ここから落とすぎ、ぼんとここまで来るとばってん、これもうこんくらいですよ。（発言する者あり）こい空気入っとおとですよ。

そういうことで、こういう、ちょっと大きさに言えば、バレーボールに近いような大きさにはなるとですよ。これが室内競技が主流であって、コートの方になると、大体バスケットとか、ハンドボールとか、その辺のコートばイメージしてもらうぎ、大体似たような感じのコートにはなります。

サッカーは11人ですのに対して、フットサルは5人です競技であってですね。このフットサルというのが今、競技人口が日本全国で200万人と言われるぐらい、アジアでトップクラスの普及度を誇っておるのが、このフットサルなんですよ。

市長にちょっとお尋ねしますが、このフットサルという競技をごらんになられたことはあるですか。テレビでもよかし、生でもよかし、ちょっと御答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が2年前ですかね、大阪の高槻市の市長公室長時代に、大阪は割とフットサルは盛んなんですね。それで練習を見に行ったり、あるいは試合を見に行ったりしたことはありますし、3週間ほど前、リバイバルの練習を大町に見に行ったことがあります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

私もフットサルは、実はサラリーマンのとき千葉におるときに、千葉の方でフットサルをしょって、もう私が帰ってきて何年になるかにゃー10年ばかりになるとですけど、その時点で、千葉でも結構やっぱり盛んにもうありよったわけですね。

ただ、こっちでは、今の段階では、そこまで盛んにまではなっておらんばってん、さっき言いんさったごとリバイバルさんとかですね、そがんして県内でも有数の、トップクラスのチームがやっぱりあるわけですね。

Fリーグがプロリーグとしてセレクションを通過して、全国8チームで今年の9月にスタートして、そして2年後――今言うたごと2年後に16チームにふやして、本格的な運営に入るわけですよ。

それで、そこに、何と市内を含めた地元企業が支援しているチームが発足して、そのプロリーグに加盟をしようと構えとんさあわけですよ。市長、ナイスチャンスですよ。ナイスチャンス。もう本なごとナイスチャンスで、もう話を聞いたときにはびっくりたまげたですよ。これ武雄市ば拠点としてのプロチームができるてなあぎですよ、青少年育成とか、そがんとだけじゃなしに、いろんな効果の期待できると思うわけですね。

何といっても武雄市のPRにはつながるし、ただ、そのプロチームとなるぎ、やっぱり地域密着とか、地域タイアップというのが絶対条件になってくるし、それには行政しかできんこと、民間しかできんこと、いろいろあると思います。もちろん武雄市の地元チームとして行くわけやっけんが、やっぱり官民一体で盛り上げることも必要じゃなかかなと。行政も全く手をかさないわけにはいかんと思うとですけど、これについてどういうふうに考えられますか、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおり、これは官ができることと民ができることをやらなければいけないということがあって、これは整理がまず必要だと思います。

しかし、これですね、お金のかからんわけですね。巨大なサッカー場をつくる必要もなければ、基本的に今あるものを利用できると、体育館であったり。そこに、保護マットをつくとかワックスをしたりというのはありますけれども、基本的には、今あるものを使えるということであれば、私は行政として、何らかの形でこの機運を盛り上げていきたいというふうに思っております。

先ほど御指摘があったように、このリバイバルが――市内の企業が応援をしておって、割とそこの練習とかに見に行きよんさあ人もおんさあですね。

ということで、私は議会の方のサインがいただける、あるいは市民の多くの合意がいただけることを前提にして、できれば全国で初めてのフットサル宣言をしたいというふうに思っております。自治体としてのフットサル宣言をしたいと思っています。その上で目標とするところは、早ければ2年後に、もう一つ、さっき申し上げたFリーグの拡大があります。そこにリバイバルが入れるような――入れるかどうかは、最後はリバイバルさんのあれです

けど、その条件に、日本サッカー協会に確認したところ、地域密着型、地域の応援というのが最大の要素の一つに入っていると。

ということであれば、一つは精神的な話として、フットサル宣言ということをして、いろんなあいてる、スペースですよ。それは室内だったり、屋外だったりするかもしれません。そういった形でお金のかからない応援をしていきたいなというふうに思っておりますし、精神的な応援にはなるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

フットサル宣言、もう早うせんばとやなかですか。

私がですね、ちょっと個人的な見解にはなるとばってん、ほかの自治体が今、例えばサガン鳥栖の交流宣言のあるじゃなかですか。サガン鳥栖の交流宣言を今、各地で交流宣言しよんさあばってん、いまいちおいーおい個人的にですよ。あくまで個人的にですけど、いまいち中身の見えにくか部分のあると思うとですよ。

武雄市は、目玉としても、そのフットサルを持って来てって、フットサル宣言もするし、サガン鳥栖交流宣言でフットサルばっていうごたふうに持っていかれんかなと思いとですよ。そがんなぎ、東は鳥栖のサッカー、西は武雄のフットサルで、コラボレーションのできるですもんね。

実はちょっとサッカーの選手で今は世界最高のサッカー選手と言われているロナウジーニョって御存じなかでしょうね。（発言する者あり）知っとんさっですか。ロナウジーニョも、大体フットサル上がりの選手ですもんね。そいけんやっぱり足首の使い方の上手かにやて、私も見よってつくづく思うとですけど、そいぎ、逆もあるとですよ。かつての日本代表のカズとか、ラモスが全盛のとき、日本サッカー界の貢献第一人者ですたいね。そのときの中盤をしよった北澤豪という、日本のダイナモというて、とにかくグラウンドを駆けずり回りよんさった選手が引退されたら、フットサルで活躍しよんさっですよ、また。

そがんふうに、サガン鳥栖とーサガン鳥栖のOBとか、サガン鳥栖を引退された方がフットサルにとか、フットサルから逆に今度サッカーの方にとかいうごたるコラボレーションで考えられると思うとですよ。

何よりよかとか、ハロプロてわかんさあですかね、ハロプロ、難しかですかね。ちょっとはい。おいもハロプロはあんまりわからんとですけど、イメージとしては、例えばモーニング娘。のごたるとばイメージしてください。モーニング娘。と言うてもわかるかどうか。（発言する者あり）ああ、それ。モーニング娘。のごたるハロプロの専属チームのごたあともあるわけですよ。

それで、お笑い芸人で調べよってびっくりしたとばってん、私と同級生やったとですけど、同じ年やったとですけど、長州小力ておるでしょう、お笑い芸人の長州小力さんですね。あの人もチームば監督したりとかしよんさあわけですね。そがんして、ふだんスポーツにちょっと縁遠かごたるふうイメージをとられる、とられがちばってん、そがんして身近に入れるというところの利点のあるとですよ。

サッカーでなっぎ、なかなか本業でやりよる人じゃなかぎ、私もサッカーしい得んごたる年になってしまいよるとですけど、フットサルというぎ、もっと身近なところできるといごと、その競技としてはもちろんばってん、生涯スポーツとしても、浸透でくつとやなかかにゃという気持ちを持っとるですね。そいけん、そういうことを考えて、サガン鳥栖の交流宣言も一緒たぐりでもうとにかく、宣言というごたるふうなとば考えられんかにゃというのは、答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

サガン鳥栖の交流宣言は、非公式に、私の方に一緒に結びましょうという声がもう四、五カ月前からありよったですね。しかし、上田議員と私も同じですね、中身のなか宣言ばしても意味なかわけですね。

そういうことで、フットサルがそれとコラボレーションできるかというのは、それはサガン鳥栖にちょっと聞いてみたいと思います。その上で、サガン鳥栖も、交流宣言も含めてフットサル宣言ということがあれば、これは、1足す1は10以上の効果があるというふうに思っています。その上で、なぜフットサル宣言がといったことに対してちょっと私の方から申し上げると、これさっきおっしゃったような生涯スポーツなんですね。小学生から年配の方までできるということと、気軽に、身近に、いつでもできるといった観点からすると、ほかのスポーツを考えてみた場合でも、自治体がスポーツ宣言をするということには適しているのではないかと。ただ、これは議論が必要です。私は問題提起を今しておりますので、またいろんな意見を聞きたいというふうにも思っております。その上でもし可能であれば、サガン鳥栖と組み合わせてできればいいなと。そのときはぜひミニモニのーハロプロか。やっぱり知ったかぶりすぎいかん。ハロプロの選手にも、そのときはぜひ来ていただければありがたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

フットサルに関しての問題提起というか、私は問題提起じゃなし、もうすぐ取り組まんばいかんて私は思うととですよ。

何でかと言うぎ、今まででも、やっぱり武雄にこれまでそがん話のあったかどうか、ちょっと私も確認しておらんとですけど、ある程度やっぱり形になってからぎ、参入できんわけですよね。今のＪリーグが発足当時だって、そのサッカーに対して国民の意見というの、完全に割れておった時代のあったと思うとですよ。サッカーというスポーツが日本の国民に受け入れらるっかいと言う人と、サッカーは絶対そういうスポーツになってくると言う人と、それはもう私はそいけん、フットサルもそがんと、今の時期にもうせんばいかんていうごたる気持ちのあるとですよ。

きのうも市長、電光石火でやらんばこととゆっくり時間ばかけてやらんばことのあるて、きのう言いんさったですね。こいこそ電光石火じゃなかですか。がばいばあちゃんのときでも早かったでしょうが、15,000千円の予算のついたかと思うぎ、即と「がばいばあちゃん課」のでけとったでしょう。そいぎ、そのタイミングば逃がすぎんた、もう何もならんと思うとですよ。そいもうぼちぼちていうぎ、よその自治体からでも横やり入れられるっぎ、全部根こそぎ持っていかれるごたる危険性もはらんでおると思うとですよ。そいけん、私はもう四の五の言わじ、さっさとするべきと思うとですけど。もう一回、御答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの質問は、去年の私を見るようで心強い限りでありますけれども、ただ、これは宣言をするというふうにしたときに、ただ、単に行政—行政の長は私ですので、私がぼんて上げて、やっぱり根つかんわけですね。

私個人としては、これはぜひ4月にでもしたいというふうに思っています。そのときに、もう議会で、ここまで答弁で、もうこれケーブルワン通じて流れていますので、そのときの盛り上げをぜひ上田議員にも期待したかわけですね。それは私もやりますけれども、やっぱり市長だけじゃできんわけですよ。こういう盛り上がりというのは、市民の代表である議員の皆さんであるとか、上田議員のごとスポーツに造詣の深か人がぐっと盛り上げていくということが必要だと思いますので、ぜひ二人三脚で取り組んでいただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

サガン鳥栖は、実は私も話したことがあってですね。やっぱり中身のなからんぎいかんということで話をして、そのときも、私も「フットサルばせんばばい」て。「フットサルしかなかけんが」て言うて言いよったぎんた、サガン鳥栖の固有名詞ば出してよかとじゃいどがんじゃいわからんばってん、佐野副社長と「うん、そうばいの」て、「やっぱりそれしか

なか、武雄市はこれで行こうよ」というごたるふうで、リアクションもかなりいい好感触をいただいていますんで、多分市長も同じやろうと思います。

そうということで、もう絶対盛り上げていかんばいかんと。そがんになったときに、こいからですよ、やっぱりいろんな企画とか、タイアップのあり方とか、もちろんＪＣとか、スポーツてなっぎ、私も所属しておるですけど、ＮＰＯの臥竜塾とかですね。そがんふうにスポーツに対してのまちづくりを行おうという団体がいっぱいありますよね。そういう団体とのいろんな調整の仕方というとも出てくると思うとですよ。非公式ですけど、そういう人たちにも、私も話をして、こういうことですよと――「がんなっぎ、協力さるっやろうか」て。「そりゃするくさん」て、「もうナイスチャンスやんね」て、私は逆に言われました、そういう人たちからですね。

そいけん、もうとにかくそういうとを考えていく上で、ちょっとさかのぼりますけど、昨年の６月議会で、私は言うたと思いますが、そういう業務を行う、例えば専門の部署ですね。スポーツ振興課の復活というのを考えるわけですよ。２年後、本格的なスタートを切るＦリーグて言いようばってん、考えようによっちゃ、２年しかなかわけですね。２年というぎ、あっという間で、前回までの質問の中で市長は、沖縄で日本ハムのキャンプの誘致の話を出されてですよ、卵が先か、鶏が先かというごたふうな例も出して言われたばってん、そういう話が少しでも武雄で出てきたときは、責任持って、我が権限でつくるぞていうふうに答弁もいただいております。まさにこいが今その時やなかかなと思うとですけど、その辺の答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、スポーツは、私は文化の一つだというふうに思っています。そういう意味で文化、何でしたっけ、学習・文化課でしたっけ、済みません。（「文化・学習課」と呼ぶ者あり）――はい。文化・学習課ですね。

だから、文化っていう、スポーツも文化の一つだというふうに実は思っております。その上で、フットサルが本当にプロリーグになっていくんだといったときには、私はフットサル課をつくらうというふうに思っています。

いや、やっぱりそがんですよ。例えば佐賀のがばいばあちゃん課も、ドラマ支援課やったらあそこまで――また、興奮してきました。ドラマ支援課やったら余り盛り上がりゃったと思います。あれは「佐賀のがばいばあちゃん課」てしたからこそ、もう我々は、職員、そして市民一同、あそこまで盛り上がったと思うておるとですよ。

そうということで、もう少し具体的になっていくときに、私はどういう――名前は別にするかにして、専門の課をきちんとつくるべきだというふうに思っています。

ただ、今はそこまでまだ行っておらんわけですね。専門の課をつくるといったときは、最後の総仕上げのときに、私は課としてつくるべきだというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

「フットサル課」、もうびっくりしました。おもしろかですね。そいばってんですよ、ある程度具体化してからじゃ、遅うなかですか。ある程度具体化させるまでの段取りというのもああとやなかかになて私は思うとですよ。ある程度具体化してからの課よりも、もうとにかく、がばいばあちゃんはその辺の内部の話は私もちょっとー立ち上げるまでの話はちょっとわからんけんあいばってんが、ある程度具体化する前からもうやっぱり課として立ち上げて、がっとう行くぞっていうごたふうな流れになっとったっちゃなかかなと思うんですけど、その辺、がばいばあちゃん課はどがんやったじゃいろ、聞かせてもろうてよかですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

がばいばあちゃんは、そもそも6月3日に市内在住のミュージシャンの舩田大輔さんから私のところにメールがありました。で、がばいばは、そこからいろんな何というんですかね、事前の取り組みは、もうそこからしていました。これは杉原議長にも御指導をいただきながらこうしていった。そのときに、がばいばあちゃん課そのものをつくったのは、8月の盆過ぎです。

それはどういうことかと言えば、本当にドラマ、「佐賀のがばいばあちゃん」が武雄市でやるんだと。やるんだって私が確証を得たときに、課というのをつくったんですね。その後の総仕上げをがばいばあちゃん課長の白浜さんにキャップになってもらって、行ったというのが経緯です。

したがって、このフットサルになぞらえた場合、今、機構改革をしたばかりです。そのときに、今フットサル課というのをつくるよりは、もう少し浸透をして、そこで、具体的にこういうことをやるんだといったこと、そのときの最初のスタートとして私はそういう課ができればいいなというふうに思っています。

だから、例えば6月に、がばいばあちゃん課をつくると言ったら、さっきの話と同じなんですけれども、もうやるよといったときに、最後の総仕上げとして、がばいばあちゃん課をつくったというのが私の認識であります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そいぎですよ、その具体化するまでの間ですたいね。その具体化するまでの間、行政ともちろんいろんなチームの方との、いろんな打ち合わせとかあったりとか、立ち上げのための準備とか、そがんともいろいろ考えられると思うとばってん、そんなときに――そんなときというか、その窓口というか、そこは、やっぱり市長が表立って、そこでばんてやってもらえんかなあと、トップセールスですよ、というごたっこの考えられんかなあとと思うとばってんが、その辺に対する取り組みはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

「佐賀のがばいばあちゃん」のときも私が窓口やったわけですね。その8月の盆過ぎになるまでは、私がすべてのフジテレビの窓口でありました。

そういう意味からすると、フットサル宣言をした後、自治体として責任を持ってした後、例えば仮称で、フットサル課ができますというまでの窓口は、これは私だと思っています。その上で、もう少し問題点とか課題を整理した上で課に落とし込んでいくというふうにせんぎんだですね、フットサル課ばいきなりつくっても右向いてよかじゃい、左向いてよかじゃい、わからんわけですね。だから、そういう意味で、私がその窓口になろうと、担おうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もう市長が責任持って窓口でてなれば、もう鬼に金棒じゃなかかなて、私は思うとっとですけどね。

そういうことで、ちょっと市長が表立ってやっていただけるということを確認できただけで、もうとりあえずは、今回の目的は達成かなあという中で、これからの武雄市ば盛り上げていく絶好のすべにはなと思うわけですよ。それもうナイスチャンスば、絶対これは物にせんばいかんと。そのチームを通して、武雄のまちおこしにつなげていかんばいかんと。ただ、それに伴う新しかビジネスとかも生まれてくると思うとですよ。がばいばあちゃんてビジネスを興しておんさあごと、そのフットサルに関してもやっぱり新たなビジネスというのが生まれんばいかんと。

で、チーム名もですね、例えばがばいばあちゃんじゃなかばってん、がばい何とかとか、その何とか武雄とか、そがんふうにもうとにかく、さっきのザスパ武雄ベースボールクラブじゃなかばってん、武雄というとは前面に出すごたあ、そのチーム名にしてもろうて、そういう働きかけというのは市長ぜひお願いしますね。

もう武雄ばとにかくアピールで、武雄が母体でというごたふうなチームに持っていったも

らえればって。そんなためにやっぱりスポーツ振興というような、1個の足がかりになると私は思うけんですよ。そこはぜひよろしく願いいたします。

済みません。何か中途半端な感じのあれになりましたけど、うんにゃ、うんにゃ、中途半端じゃなかですね。私としては目的達成で、今回、とりあえずは何とか、合格点で言われよっけんが、この辺で、私の一般質問を終わらせていただこうと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと補足をしたいと思います。

フットサル宣言で、これ市役所丸抱えやったら絶対失敗すると思うわけですね。これ、どこを見てもそうですもんね。

大体、市役所がいろんなプロジェクトで前面に出た場合は、大体もう失敗すると思います。やっぱりそれ市民がですね、がばいばあちゃんの時もそうでした。最終的には、これは市民が今でも盛り上がっておんさあですね。

そういう形をとるっていうふうになったときは、私はそういう働きかけをしていきますし――別に逃げじゃありません。だから、市民全体で盛り上げていくんだというふうになればいいなと思っていますし、それはもうちょっと強く申し上げたいというふうに思っております。

そういう意味での上田議員の、私を追い抜いた、先頭切った走りに期待をしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

それはもちろん私も協力はしますが、トップセールスにはかないませんので、その辺はぜひよろしく願いいたします。

では、済みません。これで私の一般質問を終わらせていただきます。